

自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人松涛会 グループホーム四季
(ユニット名)	はず
所在地 (県・市町村名)	新潟県上越市大字今泉字西蓮池1310-9
記入者名 (管理者)	小平 春美
記入日	平成22年 7月 13日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>春、夏、秋、冬、折々の季節を感じながら、入居者様とのふれあいを大切に、生きる喜びを共有し、住み慣れた地域で暮らしていくことができるように支援いたします。</p>	○	利用者、家族、職員がこの理念を全うしていけるように支援していきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>随時春、夏、秋、冬を感じていただきながら、利用者様が生きる喜びを持てるように一人一人にゆっくりと寄り添うことができるように職員同士で共有している。</p>	○	今後も理念を共有することで利用者様を理解し職員のサービスも向上できる支援をしていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関の見える所に理念を掲げて説明し理解していただけるようにしている。</p>	○	今後も理解していただけるように説明しながら支援していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>開所時、町内会の方々の内覧会、地域の内覧会を行った。又散歩時は、声を掛け合ったりしている。又来て頂けるような声かけを行っている。</p>	○	今後も声を掛け合いながら日常的な付き合いができるように努めていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>小学校の文化祭や町内のさいの神に参加させてもらった。町内の回覧板に事業所の広報を回覧していただき事業所内の様子を知らせている。法人の夏祭りにも協力していただけるように話しあいをしている。</p>	○	今後も交流できるように情報を促しながら努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在高齢者見守りネット事業に参加し情報交換をしている。又地域包括支援事業所、居宅支援事業所との情報交換し話し合いなども行っている。	○	今後も連携しながら協力できる事は取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めてである。外部評価の結果を受け改善していくことでよりよい環境作りと職員の向上する機会となると思う。	○	評価されたことを受け入れ職員一同改善できるようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、偶数月の10日に決めて6月12日に第4回を実施し日常生活、行事、事故報告、職員の体制等を報告しながら意見や話し合いを行っている。今回の外部評価についても説明、報告して理解を求めている。	○	今後も取り組んで行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険サービス評価会議委員を受け入れサービスの向上に向けている。	○	今後もこのような機会があれば、受け入れていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については、養成講座、研修等で学んでいる。現在ひとりの利用者が、成年後見人を利用されている。他は、家族の方がおられ現在制度について相談されたことはない。	○	今後、必要になる方が増えていくので必要な方には、支援し情報を促していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを作成し目の届く所におき注意をはらっている。特に普段から言葉の虐待がないように、職員一人一人注意を払っている。又身体的虐待についても情報提供しながら考える時間を作っている。	○	虐待はしてはならない。職員全体で、楽しく利用者向き合える生活環境を作りたい。又事例をだし話し合う時間を継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居説明時に利用者、家族に説明し同意を得ている。変更がある場合でも同様である。常に不安、疑問点を聞き入れる姿勢で利用者や家族等と関わっている。	○ 利用者、家族に理解、納得できているか、説明、同意を求める声掛けをしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見、不満、苦情が述べられるようになっている。又お一人お一人とゆっくり話しができる時間作りを心がけている。	○ いつでも意見等がいえるような環境を作り反映していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	常に相談、報告はさせていただいている。職員関係は広報に載せたり文章を配布させてもらっている。施設内にも提示している。	○ 今後も連携が必要なので相談、報告をしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見、不満、苦情が述べられるようになっている。面会等で声を掛け合い情報を促しながら家族等の意見、不満、苦情等の声かけもおこなっている。それらを運営推進委員会、市役所に相談していくように努めている。	○ 今後も家族等から意見が言いやすい環境を作りあげて行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案がいいやすいように、声をかけあっている。会議でも確認している。職員にアンケート用紙で確認した事もある。	○ 意見や提案を聞きながら働きやすい環境に努めたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	2ユニットなので、職員同士声を掛け合いながら、利用者に関わっている。家族の要望にはできるだけ協力できる体制で動いている。	○ 管理者、職員が変化や要望に応じられるように、話し合える時間を作りサービスの向上を図って行きたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、離職は、最小限に抑えるようにしている。新人には、オリエンテーションを行い利用者や家族、1日の流れを説明し理解した上で利用者で紹介しゆっくりと仕事をいただいている。	○ 異動、離職を最小限にし利用者が安心した生活ができるように注意を払いたい。
18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	委員会を設けて随時見直しをかけている。いつでも見られるようにしている。	○ 今後も情報を取り入れながら見直していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には定期的に参加している。研修には参加できるように努めている。	○ 法人内外の研修に参加することで職員の向上を努めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所当時から上越市5箇所のグループホームへ職員の実習研修をさせてもらった。又グループホーム協会に入会し研修に参加している。	○ 今後も研修に参加したり、交流する機会を持ちたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	公休は、年間126日あり法人互助会を運営し年2回新人歓迎会・忘年会を行っている。	○ 継続していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営会議を開き状況を確認している。職員の意見を聞きながら改善できることはしている。	○ 状況を把握しながら意見を出し合え向上心がもてる職場作りをしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今までのかかわりのあった介護支援専門員様からも情報をいただき、何度か利用者、家族等と面接させていただき、施設への情報を説明し安心感を与えている。	○ 不安や困っていることはないかを聞き、ゆっくり説明し理解をしていただく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居宅介護支援センターもあり複合施設でもあるため介護保険が理解できるように説明をしている。家族の協力もいただけるように説明をしている。	○ 不安や困っていることがないかを聞きゆっくりと説明、理解をしていただく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援が必要か話し合い確認している。他のサービスでは自治体でのサービスを利用できるものは説明し提供できるようにしている。	○	利用者の日常生活を見ていながら相談していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と目線をあわせゆっくり説明し本人の意向、同意を求め馴染めるように支援し、家族からも話しを伺ったり協力していただいている。	○	本人の意向を聞き入れサービスをしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ゆっくり話を聞きながら以前の事や今の事、今後の事を話しあえる時間を大切にしている。なんでも話し合う事が出来信頼関係もできて支えあう関係になっている。	○	利用者一人一人大切にかかわりを持ちたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの意見等を受け入れながら安心していただけるように利用者を支援している。	○	施設に入所していただいた気持ちを考えながら利用者、家族を支えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の様子を伝え面会に来ていただけるように連絡し来て頂いたときは、ゆっくりと居室で過ごせるように支援している。又利用者が連絡したいときには間に入り支援している。	○	家族様が気楽に来られるように心かける。又一緒に過ごせる催しものも計画していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室でゆっくり過ごせるようお茶・イス等をお出ししている。	○	馴染みの人や場所との関係は、利用者にとって大切なものなのでいつまでも大切にしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士、自由に居室を行き来し、職員は、利用者一人一人に声を掛け利用者の生活のリズムに合わせながら支援している。	○	目配り気配りをしながら利用者同士が安心した時間が過ごせるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者のところに会いに行き様子を確認している方もいる。話しを聞き相談に応じることもある。継続的なかわりを求めて相談してきている家族は今のところないが、ここを退所するにあたり相談され手続きをし、落ち着くまで様子を見てきた。	○	契約が終了しても利用者、家族様との関係は大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活を知りできるだけ希望、意向に添って尊重していきたいと思っている。又家族の希望、意向も相談させてもらっている。	○	利用者の日常生活を見ていながら暮らしの希望、意向を相談し尊重していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族から聞きながら把握し職員にも情報を促している。今の入所されている状況も皆で共有している。	○	共有しながら利用者の希望、意向を尊重していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	会議を開き検討している。又早期異変等があればカンファレンスを行いノートを利用し職員全員の把握に努めている。	○	職員が共有しあい継続できるように支援する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	契約時利用者、家族様と要望を確認し話しあい、そして日常生活でできる事の継続、不安な事は安心して行えるように職員等でサービスの計画をしている。	○	利用者、家族、職員でその人が望む支援がおこなえるように介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対応できない変化が生じた場合には変更している。又家族様の来所時にも介護計画の見直しについての相談、確認の声かけを行っている。	○	利用者、家族、職員でその人が望む支援がおこなえるように介護計画を作成していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し利用者の日常生活を把握している。また情報を共有しサービスの向上を図るように努め介護計画につなげている。	○	日常生活を把握し介護計画の見直しについて検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況、要望等に応じられるように相談に応じている。他のサービスへの申し込み等の支援も行なっている。	○	相談しやすい事業所にし要望等に応じていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア等の受け入れはしている。手話のボランティアも入れている。	○	活用できるものは受け入れていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	自治体のサービスを取り入れられるものは相談しながら行っている。又今後の相談を受けて申し込み等の支援は行っている。手話のボランティアも利用している。	○	今後も必要とならば調べて調整をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと連携している。	○	必要とならば活用できるケアマネジメント等を支援していきたい。地域包括支援センターとも関わっているので相談等をしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までかかっていた医師を希望される利用者、家族様の要望に答えている。又管理者、職員も連携が図れるように努め利用者の疾病を理解をしている。	○	適切に連携が図れるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容、実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣接している施設の担当の医師に相談したり、指導してもらい、病院の紹介もしていただき家族と相談しながら治療にあたっている利用者もいる。	○	相談しながら利用者のよい状態が継続できるようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接している施設の担当看護師に相談したり、指導してもらっている。又何かあったときはすぐに確認し指示がでる。	○	相談しながら健康管理をおこなっていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した病院には、すぐに家族、病院関係者と連携を取っている。又普段からも連携を図り相談したり指導してもらっている。早期の退院も病院側と話し合い受け入れている。	○	情報交換を行ないながら利用者の受け入れをしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在家族、医師との連携を大切にしながら早期の対応を図り指示いただいて、今後の利用者の終末期に対しての方針を考えながら職員で共有できる話し合いを行っている。	○	変化にともない家族、医師、職員等で連携を図り対応していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	契約の時には説明し理解していただいている。今までのかかりつけ医師との協力、連携を図り、利用者の重度、終末期に備えた検討は早めに対応している。	○	重度、終末期に対しての家族、医師、職員の統一、対応できるようにしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の精神的な部分への配慮を行い家族、関係者との情報を交換しダメージがないように努めている。また事前に何度も利用者との面会時間を作りダメージの防止に努めている。	○	利用者、家族、関係者との連携を図り協力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知があつてもここまでの生活暦を理解し尊重する気持ちを持ち誇りやプライバシーには注意し個人情報の取り扱いにも職員の注意を徹底している。	○ 個人情報、言葉かけには注意をしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	ゆっくりと視線を合わせて説明を行い利用者の意向を確認している。	○ 利用者から意見が言えるように支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の行きたい所を話題にだすが、なかなか利用者からの希望はない。買物に行きたいと希望がありよく買物には行ったりドライブに行ったりしている。居室で過ごしたい方には自由に休んでもらっている。	○ 利用者のレベルに合わせて利用者の希望をかなえられるようにしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	望む店には、なかなかいくことは出来ないが、出張の方からきてもらい音楽をかけたりして環境を作りながらしている。又家族から来てもらいしていただいている方もいる。	○ 利用者は現在満足しているので継続していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方は、職員と話しながら楽しく食事に携わっている。できない方でも見える場所で食事作りをして声かけを行なっている。	○ 目で楽しむ、においで楽しむそして食事が楽しめるように支援いっしょに生活している楽しみを継続していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	できるだけ、利用者の希望を大切に支援している。酒、たばこを楽しんでいる方、居室でお菓子等を楽しんでいる方もいる。	○ 希望に応じていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別に排泄パターンを把握し、トイレ誘導などケアプランに取り入れて、その人の排泄が自立支援に向けて援助できるように努めている。又排泄の失敗等があっても、プライドを傷つけない声かけをしている。	○	個々の状態を常に把握し、自立に向けた支援をしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から土曜日の中で週2回、曜日を決めて入っただいている。がその日に入りたくないと言われれば入りたいたときに入り又入る日ではないが、失禁したり、入りたい希望があれば入っただいている。又見守りながらご自分のペースでゆっくり入っただいている。(マッサージ、髭剃りも行っている)	○	自分のペースで入浴が楽しめるように支援したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご自分で行動される人は、自由に休まれている。又介助が必要な方には、声をかけて本人の状況に合わせている。	○	状況に合わせてゆっくと休めるように支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者や職員が今までの生活、現在の様子を共有し1日楽しく時間を過ごせるように役割を見つけ喜びを感じ、又レクや散歩、歌や行事等を計画し利用者確認しながら楽しんでいただいている。	○	一緒に楽しく時間が過ごせるように日常生活を共に協力し、レクや行事等を利用者と共に計画しながら支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がほしいものはできるだけ本人と出かけて選んで買物に行っている。現金は、本人管理の人もおられ買物をしながら、ご自分で支払っている。	○	お金の管理は、トラブルになるが、利用者、職員で話し合いながら継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気を見ながら、戸外には出ていることは多い。畑を見たり施設のまわりを散歩する機会が多い。玄関で外の景色を見たり体操したりしている。	○	外へできるだけ希望にそって出かけるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家が心配、行ってみたいと言われ行ってきた。しかし利用者に行きたい所と話題にだすとなかなか希望を言わない。買物に行きたい希望はある。すぐに他の利用者にも声かけ買物に出かける。行事で出かけるとうれしがってられる。	○	希望を聞きながら出かけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をしたい希望があれば、連絡している。又家族から来た場合でも配慮している。手紙のやり取りの支援も行っている。	○	電話の希望があれば支援し手紙等を協力していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来てくださった気持ちを大切に、居室でゆっくりと過ごせるようにイスやお茶を出している。	○	気楽に訪問していただけるように声かけをし過ごしていただけるようにしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、資料や情報はすぐに回覧している。身体拘束はしていない。	○	身体拘束はしない。何かあったときには、家族に相談をする。又運営推進委員会等相談し身体拘束をしないで支援していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解しながら支援をしている。玄関は日中鍵を掛けていない。好きなときに玄関の外のイスや畑に行き楽しんでいる。	○	鍵はかけないでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーを守り安全で居られるように注意している。普段の様子を共有し合う事で職員同士把握し安全な配慮につなげている。	○	プライバシーを守り楽しい自由な時間を過ごせるように努めたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物を取り扱う場所を決めて危険がないように、利用者の見守りを行っている。その日その日の利用者を観察し職員同士が声をかけ利用者の安全に注意を払っている。	○	危険なものの注意を認識しながら取り扱うようにしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日頃から、情報、ヒヤリハット、事故報告を確認しながらカンファレンスを行い回覧し共有し注意をはらっている。	○	職員が日頃危険がないか目配り気配りができるように声を掛け合い事故防止に努めて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修を受けている。マニュアルも閲覧できる場所におき認識できるようにしている。	○	研修を取り入れたり話し合える機会を入れたりしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接した施設があり、避難できるようになっている。地域の人々からも協力していただけるように運営推進委員会で話している最中である。避難訓練を行っている。	○	日頃から職員同士災害に注意を払えるように又地域等の連携を図っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に高齢者のリスク、利用者のリスクを話し合っている。又小さいリスクでも早めに相談をしている。職員にも注意する点を話しあう時間を作り対応を統一し面会時等で家族に報告している。	○	安心した生活が継続できるように職員、家族で協力しあい対応していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、小さな体調の変化や異変はすぐに報告し知らせるようにしている。又看護師に相談し指示をもらい対応している。	○	小さな異変でも注意を払い看護師に相談し指示を仰ぎ早めな対応をしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個人の記録ファイルに服用している薬の処方内容をはさめみ注意する内容等が誰でもすぐわかるように受診・往診の新しい情報を入れ替えている。又受診等の報告をノートに記録し変更された場合でも2ユニットの職員が目を通し情報を共有している。	○	薬の疑問等看護師に相談しながら観察していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	普段から水分摂取に心がけている。運動も適宜行っている。便秘気味の方の観察も行って周期的に便ができるように医師とも相談したり、トイレでの誘導もおこなっている。	○	周期的な排便になるように観察していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員が、声かけし確認しながら、定期的に観察を行っている。介助が必要な利用者には介助を行っている。協力歯科からも見ていただいている。	○	口腔ケアについて、歯科医師会の在宅サービスも今後取り入れていきたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の様子からその人にあつた量や内容で考えている。また疾病等を職員で検討しながら統一を図っている。	○	本人の摂取量を確認しながら提供していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員を決めて、マニュアルの作成をし面会の方、職員の健康状態を確認しながら出入りしている。玄関には、消毒、マスクをおき外部からの注意をはらっている。	○	手洗い、うがいを継続し職員の健康管理、認識を向上していく。外部からも注意を払っていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日時間を決めて器具等の消毒に努め手洗いの徹底をしている。食材も当日配達してもらったりし、買物したのも早く使用し注意を払っている。	○	食中毒の予防に努め新鮮な食材を利用していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路より入り口がわかりにくいのが、花やイスを置き誰でも休んでいただけるようにしている。	○	安全な出入り口であるように注意していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてゆっくり生活ができるように心がけている。狭い中でも落ち着いた時間を過ごせるように配慮し、2ユニットに自由に行ききできるようにしている。	○	利用者から落ち着いた空間であるように季節感を取り入れていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビング、玄関と利用者が、自由に過ごせるようにしている。テーブル、イスの位置を変えたりしながら楽しむ事もある。2ユニットを行ったり来たりして楽しんでいる。	○	思い思いに過ごせるように職員が間に入ったりしながら空間作りをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前には、本人、家族様には、説明し好きな物を持ってきたり、今まで使用していた家具を持ってきていただいたり、花を飾ったりと自由にしてもらっている。	○	職員とも居室の様態替えや整理しながら、居心地よく過ごせるようにしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を設置しながら注意をしている。又朝、必ず換気し空気の入れ替えを行い、冬場は定時確認しながら観察を行った。エアコン温度設定は、夏28度、冬20度とし調整しているが温度計や利用者の意見を聞きながら調整している。	○	季節ごとに対応しながら調整し過ごしやすいように注意していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に合わせた建物ではないが、安全に注意しながら危険な箇所がないかを話しあいながら利用者の自立できるように環境整備に心かけている。	○	レベルを把握しながら危険な箇所はないか環境整備を自立支援をしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できる喜び楽しみを実感できるように残存機能を生かし混乱しないようにゆっくり視線を合わせた会話をし失敗しても尊敬を大切に支援している。失敗を気にされたいれば介助できる声かけをしている。	○	できる事は継続してできるように支援をしていきたい。又できないことがあれば利用者と相談しながら職員で共有し介助していきたい。
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にベンチや椅子を置き妙高山を見ながら、体操やお茶を飲みながら四季を楽しんでいる。施設を1周できるので、散歩をし途中花壇を2箇所、草花、樹木を植えて眺めている。	○	継続していきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入所していただいた感謝の気持ちを持ち利用者一人一人を大切にしていきたい。
- ・春、夏、秋、冬の季節を共に感じながらなじみの関係を作り笑顔のあるグループホームにしていきたい。